

趣味の広場

川柳 二十句

二十回生 井出(藤川)敏
(柳名 胡蝶)

米寿喜寿 共に迎えし 果報者

しあわせな 新年 孫が九人目

風揚げや 羽子突き失せた 都市砂漠

高千穂の 雲仰ぎ見る 紀元節

少子化で 客集まらぬ 雑節句

もう少し 皺の見えない 鏡欲し

減反で へのへのもへじ 欠伸する

橋の無い 三途の川は 渡れない

墨で描く 白が優位の 雪景色

除夜の鐘 余韻が去年と 引き戻す

俳句や川柳は字数が少なく、私には無理と
決めつけて長年短歌に親しんで来ましたが、
診療の合間に「川柳教室」に行く夫について
PTA(?)のつもりで参加して、十年近く
なります。

穿ち・軽み・可笑しみを十七文字に折り込
むことは中々むつかしく深く、考えるところ
三要素から離れていくように、思えるので
が、先輩の皆様にご教示いただき少し披露さ
せて戴きます

少ない着 大事にしすぎ 腐らせる

水捌けが 良すぎ大事な もの失くす

鏗節 削る音色に 母思う

忙がしい 中に昼寝も 入れておく

指宿の 砂湯平和な 首ならぶ

新幹線 今日の絶景 傘の富士

撒水と げばかり祈る 原爆忌

風鈴が 涼しさ誘う 昼さがり

衣・食・位 足れど礼節 不足がら

へそくりと 隠した箸の 場所に無い



編集部より

井出様には毎年短歌をご寄稿頂いてますが、今年は
趣向を変えて川柳を頂きました。

会誌十三号にご寄稿の短歌「富士十首」の後にご主人
俊一様(柳名 俊太郎)と連名のおめでたい「金婚を
迎えて」の川柳五句を掲載しています。

お互いに よくぞ堪えたと五拾年